

思い出す感謝の日々



【心塾東京寮で】

卒業生の皆さん

返還は10月からです 書類提出お願いします

卒業生の皆さん、おめでとうございます。交通事故でご家族が突然の不幸に見舞われ、その逆境のなかで奨学生として勉学に励まれたことに敬意を表します。卒業した際や、その後も必要な手続きがございます。ご承知おきください。

★卒業した際の手続き

奨学金が終了した卒業生には、3月中旬に「最終的な貸与金額を通知」するとともに、「返還手続きのこ

案内」をお送りします。自分の借りた金額を再確認し、案内に従って手続き書類を返送してください。

返還の期間や方法に関する重要なものから、必ず書類の記入、返送をお願いします。また、口座引き落としが原則ですので、口座振替依頼書も必ず送ってください。

★返還猶予

進学に伴い猶予を希望する奨学生は「返還猶予願」

を必ず提出してください。返還猶予の手続きは、3月中旬にお送りする先ほどの「案内」でできるようになっています。

また、現在返還中の人が、病気、災害、経済的な理由で返還できないときも「返還猶予願」を提出することによって、一時的返還猶予が認められます。

★各種変更届

返還期間中は、引越しや結婚などさまざまな転機が訪れることと思います。こ

うした場合は、必ず「変更届」を提出してください。主な変更届は次の通りです。

- ▽本人及び連帯保証人の氏名、住所、本籍、電話番号などの連絡先の変更
- ▽返還金の引き落とし口座の変更、振り込みから口座引き落としへの変更
- ▽返還方法の変更（金額や一括繰り上げ返還など）
- ▽連帯保証人の変更

卒業した際の手続き関係 奨学課 0120-521286
返還に関する問い合わせ 返還課 0120-521287

東京・卒塾生メッセージ (敬称略)

信頼してもらえます 教師になります！

石田 杏寿

上京してきたからの大学生生活は、本当に充実した日々でした。1年生の頃はコロナ禍でしたが、アルバイトを始めたり、サークル活動に積極的に参加したりと、やりたい事をたくさんこなせられた4年間でした。

日々を楽しく生き生きと過ごせたのは、家族や交通遺児育英会の皆様の支えがあったからこそだと思っています。本当にありがとうございます。4月から静岡で小学校教員として働きます。信頼してもらえる先生になれるように、努力や研究を惜しまず、笑顔で過ご

心塾の思い出糧に 大学院で研究続く

道下 亜美

4年間の大学生生活を無事に終えられることを嬉しく思います。ひとえに育英会や心塾の方々、家族、育英会の学生の皆様の支援のおかげで上げます。心より感謝申し上げます。4年間で研究した文学とは全く異なる分野です。心塾の思い出を元気の糧とし、今後も精進してまいります。今後ともよろしくお願

いいたします。

コロナ禍、就活： 心塾が苦境の支え

吉田 陽向

初めての親元を離れての生活、大学に通えずオンライン授業続いだったコロナ禍、難航した就職活動。先行きが不安な状況の中で、心塾の存在は大きな支えになりました。本当に感謝しています。心塾で学んだものを生かして、社会に出てからも周囲と支え合い、学び続けられる自分でありたいと思います。

共同生活で触れた 価値観で自ら成長

牧山 菜生

寮生活を振り返ると、4年間でさまざまな思い出があります。とりわけ、さまざまな行事や日常生活

石橋会長ら祝辞で激励

東京・関西 心塾卒塾式

2月にあった心塾の卒塾式では、東京寮6人、関西寮17人が心塾を巣立った。多くの卒業生から「コロナ禍で学校が始まったが、寮があることで安心できた」など、寮生活への感謝が寄せられた。出席した当会役員らも祝辞を贈り、次の進路へ進む卒業生を励ました。

石橋健一会長は「仕事をやる上では、論理的な思考、コミュニケーション力、儒教の『仁・義・礼・智・信』に表される人の道を外れないことが大事だ」と述べて社会人としての心構えを説いた。

土肥寿昌理事長は米野球殿堂入りを果たしたイチロー選手を引き合いに、「日々の小さな積み重ねが大きな仕事への唯一の道」と述べて激励。心塾塾長の大屋克文専務理事は、最澄（伝教大師）の「一隅を照らす」との言葉を紹介。「それぞれの立場でなくてはならない人になって」と挨拶した。

東京寮の文章講座講師を務める元共同通信記者の山田克さんは、自身の社会人経験を振り返りながら、武者小路実篤の詩「進め、進め」を朗読してエールを送った。

関西・卒塾生メッセージ (敬称略)

大勢に支えられて 一番成長した4年間

傅明地 海

4年間を通してさまざまな経験や気付きがありました。一番は、多くの人の苦勞や支えがあった生活が成り立っていたことでした。普通に生きる

出張講演を聴いて

夫の事故を思い出し、少し切ない思いでした。残された家族のつらさを十分に理解できました。

被害者、加害者、それぞれの家族……交通事故はいろんな人の人生を一瞬で変えてしまうと感じました。

人ごとではない！

事故は一瞬でも残された家族のつらい思いは一生続くと感じました。

（加害者側への）恨みも乗り越えて事故撲滅を願う姿に感動した。

交通事故死がゼロになるように、一人一人がもっと関心を持って「交通事故を起こさない、交通事故に遭わない」と、意識することが大切だと思います。

二十数年前、主人が帰宅途中に事故に遭い、同じような思いをいたしました。幸い主人は無事でしたが、「もし運命が変わっていたら……」と思わずにいられません。

こうした講演を聴くことは人生にとってプラスになると実感しました。

交通遺児にとって「心塾」は経済面だけでなく、新しい居場所を作るという意味でも大きな役割を果たしている。多方面からのサポートによって、遺児たちは可能性を開き、団体様のアンケートより）

被害者にも加害者にもならないよう努力する。飲酒運転は絶対しない。

車を運転する際は、常に安全運転を心がけることを意識したい。

交通事故で将来が大きく変わる中、前を向いて学ぼうとする学生をサポートする仕組みは素晴らしいと思う。

「ハンドルの重みは命の重み」という言葉を常に忘れず、運転しなければならぬと改めて思いました。

（静岡県・鮫バス静岡さくら営業所様のアンケートより）

日常が当たり前ではなくなるつらさは、当事者でなくては実感できないことでしょうか。病で亡くなる場合とは気持ちの上での覚悟も違うでしょうから、改めて交通ルールを守り、事故のない日々が続くよう願います。

交通事故で大切な人を失う苦しみや、親族の本心が見えたようで恐ろしく思った。加害者にも被害者にもならないよう行動しようと思います。

（交通遺児となった）子どもたちには、何事にもくじけない強い心を持つた人になってほしい。

（神奈川県・大和市交通安全関連3団体様のアンケートより）

講演の申し込みを受け付けています

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当会ホームページ（<https://www.kotsumi.ji.com/>）または電話（03-35556-1789）にてお問い合わせください。